



第3章 歴史資料・災害資料の保全・活用

吉川, 圭太
木村, 修二
奥村, 弘
室山, 京子
古市, 晃

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 17 (平成30年度事業報告書) :45-46

(Issue Date)

2019-03-22

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012146>



第3章

歴史資料・災害資料の保全・活用

歴史資料ネットワークへの協力・支援

1. 災害対応

2018年6月18日に発生した大阪北部地震では、歴史資料ネットワークと協力して被害情報の収集及び共有につとめたが、レスキュー案件はなかった。7月に発生した西日本豪雨災害では、歴史資料ネットワークと協力して岡山・広島・愛媛などでの被災資料保全活動を支援した。9月4日に近畿地方をおそった台風21号については、歴史資料ネットワークがレスキューした神戸市内と大阪市内の被災資料の乾燥処置・整理作業に協力した。

また、歴史資料ネットワークが定期的を実施している東日本大震災津波被災資料（岩手県大船渡市S家資料）の整理作業に協力した。（文責・吉川圭太）

（文責・吉川圭太）

2. 神戸市兵庫区平野地区における活動

本年度も「奥平野古文書勉強会」が毎月1回（第2日曜）開催され（8月は休会）、すべての例会で木村がチューターを行った。

（文責・木村修二）

石川準吉関係資料の調査

朝来市生野町出身で企画院官僚を経験し、国家総動員史の編集を担い、生野代官所等の研究者でもあった石川準吉氏が残した史料については、これまでの調査で目録作成が終了した。このうち、石川準吉関係史料については、昨年度国立歴史民俗博物館がその基本部分を購入した。生野鉱山関係の資料については、今後の保存活用の方法を検討中である。

（文責・奥村弘）

附属図書館震災文庫への協力

本学の震災復興支援・災害科学研究推進室からのサポート経費に基づき、災害資料学の実践的研究を附属図書館とともに行なった。

2018年度は、2019年2月4日には、第8回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会（於社会科学系図書館）を開催し、岩手・宮城・福島の公立図書館及び大学図書館、国会図書館、和歌山大学などからの参加を得て、震災資料の公開活用に関して意見交換を行った。

また、ハーバード大学ライシャワー日本研究

所と附属図書館震災文庫との日本災害 DIGITAL アーカイブの連携・協力に関する覚書の締結に協力した。

昨年度に附属図書館で開催された展示「阪神・淡路大震災を見つめる一大木本美通氏追悼」については、附属図書館の協力を得て、追悼集の編集制作を進めており、本年度中刊行の予定である。

(文責・吉川圭太)

的活動とは異なる文化的活動(粉本類など)、家の信仰に関わる資料、また吉田家と累代にわたり姻戚関係を形成した高木家(旧)に関わる資料なども存在することが判明している。

(文責・古市晃)

人文学研究科古文書室の所蔵文書整理

昨年度に引き続き人文学研究科古文書室所蔵文書の整理作業をおこなった。今年度は故石川道子氏が担当しほぼ完成に近かった「木村酒造文書」目録の最終整備をおこない、かつ昨年度から取り掛かっている「御影村文書」目録整備と解題作成を進めた。

(文責・室山京子)

住吉歴史資料館での調査・研究

2017年度より、国立歴史民俗博物館の公募型共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」に共同研究員として参加し、主にコレクションを形成した呉田の吉田家における好古活動の調査にあたっている(代表:藤原重雄氏。東京大学史料編纂所。3年間)。吉田家の主要なコレクションはすでに散逸しているが、折しも2018年2月、吉田家に残っていた資料が住吉歴史資料館に寄託されることとなった。それを受けて、加藤明恵氏、また内田雅夫氏(住吉歴史資料館)と共に調査を開始している。調査は継続中であるが、吉田家のコレクションと密接に関わる資料をはじめ、好古